

薬剤科 DI ニュース

ヒアルロン酸製剤（アルツ・スベニール）

ヒアルロン酸とは

ヒアルロン酸は軟骨の成分（プロテオグリカン）の原料で、関節液中に多く含まれています。関節液はネバネバしていて、うまく動くように潤滑油の役割をしていますが、ネバネバしているのはヒアルロン酸を多く含んでいるからです。関節に炎症が起きると、白血球の酵素がヒアルロン酸を分解して関節液はサラサラになり、潤滑油としてののはたらきが低下します。ヒアルロン酸は関節軟骨を保護し関節の動きをなめらかにする目的で使用されます。

作用部位・作用機序

ヒアルロン酸製剤は、関節組織を被覆・保護し、潤滑機能を改善します。また、変性軟骨、滑膜に染みこみ、軟骨においては変性変化の抑制、軟骨代謝の改善をもたらし、滑膜においては発痛物質の作用を抑制して、疼痛抑制作用を発揮します。これらのことから疼痛の寛解、日常生活動作及び関節可動域の改善をもたらします。

適応

①変形性膝関節症

（変形性膝関節症：関節軟骨が使い過ぎや年齢のために磨耗、変性してしまい、クッションとしての役割をしなくなってしまうため、軟骨の周囲の骨が過剰に増殖した状態です。股関節や膝関節によく起きます。お年寄りの膝に水がたまって痛み原因のほとんどがこれです）

②肩関節周囲炎

（肩関節周囲炎：肩関節の周りの柔らかい組織（腱、靭帯など）が年齢とともに傷んで、炎症を起こすのが原因と言われている）

③慢性関節リウマチにおける膝関節痛〔スベニールのみ適応あり。但し、4つ基準をすべてみたすこと⇒添付文書参照〕

（RA：全身の関節に炎症が起きて痛み、手足が変形する慢性の病気のこと）

アルツおよびスベニールの比較

比較項目	アルツ	スベニール
平均分子量 ¹⁾	60～120万	約190万
貯法	室温保存	冷所（15℃以下）

※有効率

有効率（中等度改善以上）	アルツ	スベニール
変形性膝関節症	66.1%（279/422例）	72.6%（69/95例）
肩関節周囲炎	70.3%（71/101例）	65.7%（65/99例）
慢性関節リウマチ	—（適応なし）	64.7%（44/68例）

1) ヒアルロン酸は分子量依存的に関節軟骨変性を抑制し、軟骨基質を保持するといわれている